

## P4-1 当院デイケア利用者の認知機能の推移

○西谷 尚子(OT)

医療法人社団松本会 松本病院

Key word : 認知機能, 通所リハビリテーション, 測定

【はじめに】本院の通所リハビリテーション室(以下、デイケア)では、利用者が住み慣れた自宅で日常生活に支障なく生活できるように支援するため、運動機能並びに認知機能への支援を行っている。

2015年以降、体操、筋力増強訓練、バランス能力訓練と脳トレーニングを組み合わせた複合トレーニングを行うことで、相乗効果が得られる試みを行ってきた。今回、過去3年間のデータをもとに利用者の認知機能改善に及ぼす影響を調査した。

【目的】運動機能訓練と認知機能訓練を組み合わせることで、利用者の認知機能が改善するか調べるため。

【説明と同意】本研究をするにあたりヘルシンキ宣言に則り、デイケア利用者に説明と同意を得た上で、発表にあたり個人が特定できないように配慮した。

### 【対象と方法】

- ①対象者：2015年から2018年までの間でデイケアを利用している利用者を対象とした。
- ②対象者数：デイケア利用者82名中、同意が得られた64名(64名の測定内訳：3年連続測定実施30名、2年連続測定実施23名、1年のみ測定実施11名)に実施した。
- ③年齢：69歳～91歳。
- ④介入方法：ナンプレ、かなひろい、単語記憶、言葉探し、計算を中心とした机上の脳トレーニングとマシントレーニング、エルゴメーター、トレッドミル歩行、TRX、チューブとボールを使ったトレーニングを中心とした運動機能面への介入を実施した。
- ⑤認知機能面の測定方法：通所開始時とその後1年毎に改訂長谷川式簡易知能評価スケール(以下、HDS-R)とMini-Mental State Examination(以下、MMSE)を用いた。
- ⑥環境設定：別室の集中できる環境で、利用者セラピストが90°位になるように席を設定した

【結果】今回、1回目と2回目の変化については2年連続測定者と3年連続測定者の合計人数53名、2回連続の変化については3年連続測定者30名をもとに割合

を出した。

- ①1回目より2回目に向上がみられた人数：HDS-R 17/53名(32.0%)、MMSE13/53名(24.5%)。
- ②2回連続点数に向上がみられた人数：HDS-R1/30名(3.3%)、MMSE0/30名(0%)。
- ③HDS-Rで向上した項目(17名中)：遅延再生9名、言葉の流暢性7名、数字の逆唱5名、場所の見当識3名、物品の記銘3名、日時の見当識2名、言葉の記銘2名、計算1名。
- ④MMSEで向上した項目(13名中)：遅延再生6名、計算5名、日時の見当識3名、場所の見当識3名、文章記銘2名、口頭命令2名、言葉の記銘1名、文章作成1名。

【考察】本院デイケアは2015年より認知機能の維持および向上を目的に、運動機能訓練と脳トレを組み合わせた複合トレーニングを実施してきた。同時に利用者の認知機能をHDS-RとMMSEを用いて測定してきた。今回の結果よりHDS-R32.0%、MMSE24.5%に点数の向上がみられた。一般的には加齢とともに認知機能が低下していくといわれる中、少なくとも本院デイケア利用者の24.5%は向上が得られた。

HDS-Rの改善する人数がMMSEの改善する者より多いことから、認知機能の中では記憶に関する項目が向上しやすいと推測する。また、項目別でみると特にHDS-Rでは遅延再生・言語の流暢性、MMSEでは遅延再生・計算の点数向上が目立った。このことから本院デイケアの認知機能への取り組みが利用者の遅延再生・語想起・計算能力において特に効果があったと考える。

【まとめ】本院デイケアでは遅延再生においてHDS-R・MMSEともに向上がみられた。本院デイケアでの取り組みにより、認知症初期から低下していく短期記憶への働きかけが期待できる。一方、1回目より2回目に点数向上がみられた利用者いたが、2回連続向上した利用者はより限られている。今後、認知機能の向上を継続させるための取り組みが課題である。